

学校の臨時休業中における児童生徒への学習支援アイデア集

ICT活用編 その3 ～ LINEの活用法 ～

ICT活用の第3回の通信です。今回は、同時双方向型コミュニケーションツールの紹介です。

その1でもお伝えしたとおり、現在の各学校での学習等への支援の方法は一方向型のシステムとなっており、教材を提供したり、回収するのは家庭訪問や登校日に提出する方法がとられています。また、それ以外で子どもたちの様子や家庭の状況を知るためには電話での対応となり、1対1の対応でクラス全員となると、これも担任の先生方の負担が大きいと考えられます。

民間企業では、この休校時に役立つサービスを無料で行っている場合がたくさんあります。今日はそのなかでも、多くの方が使っている「LINE」の活用方法について、ご紹介します。

休校時に役立つLINEの使い方

<https://guide.line.me/ja/experts/schoolclose-tips.html>

先生や生徒、保護者会のコミュニケーションを円滑にするTIPS（裏技）が紹介されています。

休校時でもLINEを使って大人数で連絡を一度にとることができます。さらに、プリント配布や授業の中継などをオンライン上で行うことができます。

紹介されているのは、右の7つの項目です。どれも学校で活用できそうな内容でした。LINEを使っている保護者や児童生徒も多いので、導入への抵抗は少ないかもしれません。

その中でも、すぐに活用できそうな項目を2つ紹介します。

OpenChatでクラスのグループを作る

ビデオ通話で面談や保護者会を開催

パソコン版のLINEでプリントを配布

チャットライブでオンライン授業を開催

ノートに授業状況を記録する

LINEの教材で自宅学習をする

OpenChatでクラスのグループを作る

OpenChatとは、もともと「匿名」で参加できるグループチャット機能のことです。本来では、同じ趣味を持った匿名の人たちが集まり、気軽に参加し発言できる掲示板みたいなものです。それを学校用に使う裏技を掲載しています。

オープンチャットの主な特徴

- ①LINEと別のプロフィールを設定できる
- ②URLの共有のみで招待・参加できる
- ③参加する前のトーク内容を確認できる
- ④1ルーム5000人まで参加できる

この機能をうまく利用すると、担任や教科の先生と生徒の連絡手段として活用できそうです。また、目的に応じて学校用、学年用、クラス用など複数のOpenChatを作成することも可能です。

LINE OpenChat (オープンチャット)
休校時の学校現場でのご利用方法について

<http://openchat-blog.line.me/schoolusecases.html>

活用例としては、まず学校用のOpenChatを作成し、そのQRコードを案内状などの紙媒体に貼り付け、各家庭へ配布し、入会を促します。学校用に各家庭が入会してくれれば、その後の連絡は紙媒体を直接家庭へ届けることなく、LINEで一度に配信すればできるようになります。

必要に応じて学年用、学級用、教科用のアドレスを学校用のOpenChatに掲載することによって、必要に応じたグループが作成でき、学級担任からの時間割の連絡、教科担任からの教科指導の連絡等が双方向でできるようになります。

さらに、休校期間が終わり、通常通りになったらすぐに削除できるところもよいと思われます。

生徒に招待用URL配布



LINEの教材で自宅学習をする

新型コロナウイルスに関連した休校などで学校に行けない中学生・高校生を対象に、無料の授業動画や問題集を配信しています。



ただし、生徒にこのサイトを紹介するだけでは活用は厳しいと思います。先生方が各教科の指導計画や教科書と見比べ、評価についても考えながら、使えそうな教材や動画などを明確に指示することが大切です。先程の教科のOpenChatなどに「本時は教科書の〇ページで、LINEの〇〇をやってください。」など「いつ・どこで・なにを・どの範囲までやる」を示すことによって、子どもたちもゴールが明確になり、「ノートに書いたものを写真で送ってください」と指示をすれば、評価もできそうです。

双方向型のコミュニケーションを！

LINEはこれ以外にも「LINE公式アカウントを無償で利用できる『学校プラン』を提供開始」しています。このように、子どもたちの学びを保障するためにたくさんの企業がアイデアを出しています。学校でも「双方向型のコミュニケーション」をとれる環境を作るために、検討してみてもいいかもしれません。